

外房法友会

法政大学校友連合会外房支部
外房法友会会報
第 9 号

発行所 法政大学校友連合会外房支部
外房法友会

発行人 渡辺光夫
〒297-0016 茂原市木崎118-27
TEL 0475-22-5215



平成23年度外房法友会総会 記念撮影 平成23年7月9日(土)

参加者全員で集合写真



勝浦市の「獅子ひよっとこ会」と藤平先輩、渡辺会長

藤平先輩の労をねぎらう会開催

昨年七月九日、茂原市のプラザヘイアンにおいて、平成二十三年度総会並びに「藤平先輩の労をねぎらう会」を開催しました。ご来賓に、林白子町長、森代議士秘書鈴木氏、高村校友連合会副会長、伊藤千葉中央支部長をお迎えし、多くの校友参加の下、盛大に行われました。来賓各位より、藤平元市長の長年にわたる功績にたいし敬意を表されるご挨拶がありました。

藤平先輩のご挨拶では、ご自身の政治信条と、法政大学のかかわり、特に、政治活動のなかで法政大学の同窓であるということとで多くの支援をいただいたことのお話がありました。また、顧問の太田いすみ市長は、市政を運営していくにあたり多くの事を藤平先輩から学んだとのことがあり、感謝の言葉を述べました。藤平先輩の地元勝浦市からは「獅子ひよっとこ会」の江沢代表以下二名の方がお祝いに駆けつけ、にぎやかに獅子舞とひよっとこ踊りを披露していただきました。



祝辞を述べる
上右太田顧問
上左林白子町長
右森代議士秘書
鈴木氏

藤平氏に旭日小綬賞

四月二十九日に春の叙勲があり、外房法友会の顧問で元勝浦市長の藤平輝夫氏が「旭日小綬賞」を受賞されました。外房法友会会員一同心よりお祝い申し上げます。藤平氏が、長年にわたる地方自治の推進に努め、地方の活性化を図る取組をされたことが高く評価されたものであると思います。本年七月七日開催予定の総会後の懇親会は「藤平氏の受賞のお祝い」も兼ねまして開催予定です。多くの会員の参加をお待ちしています。

外房法友会会長 渡辺光夫

法政フェア見聞録

成嶋まさる

学園祭と言うと高校を思い出す。一方、学祭と言うと大学を思い出す。大学は学園でないせいなのか？ 高校は学園なのか？ あるいは私の個人的な思い出だろうか？ 「学祭」ちょっとほろ苦い言葉だ。

三十年前の法政祭は十一月下旬にオールナイトで朝まで行っていた。あまりに寒く、屋外にある鉄製のごみ箱に木を入れ、火をつけて簡易ストーブにして寒さをしのいでいた。屋台の安酒を飲んで酔い潰れた学生は、拉致されて、通称「トラ箱」と呼ばれていた五一一号教室に収容され、酔いつぶれる一歩手前の学生は、ふらふらしながら学生会館の中をゾンビのようにさまよっていた。明け方、手洗いをすると、まるで東南アジアの難民キャンプのようだった。今から考えると、とても考えられないことだが、現在の学祭はどんな状況なのだろうか？

市ヶ谷キャンパスというイベントが昨年九月二十五日に開催された。外房法友会で参加を募り、バスをチャーターして、総勢十四名で法政フェアin市ヶ谷キャンパスに行くことになった。せっかく行くので他の校舎も見学しようということ、当初、多摩キャンパス→工学部→市ヶ谷キャンパスのルートを検討したが、工学部校舎は工事中というのでやむなくカットし、多摩キャンパス→市ヶ谷キャンパスのルートとなった。

多摩キャンパスは初めて行ったが、当日は休日ということもあり、学生もほとんどおらず、広い敷地の中に新しい建物がつんと建っており、まるでSFみたいだ。外房法友会会員で大学職員でもある田中さんの説明によると、映画「踊る大捜査線」のロケにも使われたところ。人が少なく、じやまが入らずロケには良い場所なのだ。う。学生が勉強するにも良い環境だと思いが、今の法政生は勉強するのだろうか？三十年前の法政生はほとんど勉強しなかつ

たと思う。そんなことを考えながら、市ヶ谷キャンパスに向かった。法政フェアには、キャンパスツアーがあり、一グループに案内役として一名の現役学生がつく。ちなみに案内役は男子学生も女子学生もいる。私達のグループはみんなの願いが通じて女子学生が案内してくれた。ただで現役女子学生と話ができるなんて夢のような学祭だ。早くも来年も来ようかなと考えている。

三十年前にはなかったきれいな校舎に続いて、見覚えのある古い校舎にきた。なんと「トラ箱」と呼ばれていた五一一号教室はまだある。酔いつぶれた学生はいなかった。法政フェアでは酔いつぶれる学生はいないらしい。案内役の学生によると古い建物は建て替えが決まっているそう。複雑な気もするが、良いことなのだろう。トイレも和式だしね。

ってごみ箱で燃やして暖まっていた友だちとは音信不通になってしまった。バチが当たったのだろうか？ ちよっと心配だ。

最後にスロットマシンを使った抽選会があったが、外れのバチが。田中さんの手配により、全員が「法政オレンジカステラ」をお土産にもらい、バスの中でビンゴゲームをしながら無事に茂原に着いた。また、外房法友会として、どこかへ行こうと思えますので、ご家族もいっしょに参加されてはいかがですか？

(昭和五十七年・法学部卒)

総会以外の会行事についての連絡は、経費の関係で総会参加者にしか出来ません。連絡ご希望の方は下記アドレスに「連絡希望」とメルルいたただければ、今後その都度連絡いたします。

Email h.furuyama@sanyou.sakura.ne.jp



多摩キャンパス到着



全員で記念撮影



広いキャンパス内の移動はバスで



経営学部棟



キャンパスの中に橋まで



きれいになった市ヶ谷キャンパス

法政大学キャンパスツアー

なつかしき我が母校 法政 に行ってみませんか

1. 開催日 平成23年9月25日(日)

2. 日程

7:00	→	7:10	→	7:20	→
Dライン		ハヤシ緑沢店前		茂原市役所	
大同交通千葉営業所 いすみ市島(駐車場あり)					
10:00番			11:30番		
外房有料道路・東関道		→		法政大学多摩キャンパス	
首都高・中央高速					
12:30番		15:30番		17:30	
法政大学市ヶ谷キャンパス		→		茂原市役所	
17:50		18:00			
ハヤシ緑沢店前		→		Dライン	

3. 参加費用 会員 6,000円
家族・友人 4,000円

当日徴収します

4. 注意事項 車中にて酒類の用意をしますので、飲酒される方は運転しないよう願います

キャンパスツアーの旅程表です



外濠校舎 薩たホール



ポアソナード博士



トラ箱へ続く55年館廊下



ポアソナードタワーから見る
スカイツリー



ほたる集めん門の外濠



不心得者に天罰を加える
靖国神社とビル群

齊藤法律事務所

弁護士 齊藤 友嘉
(昭和52年法卒)

東京都中央区銀座7-15-5共同ビル401号室
電話 03-3543-1341
FAX 03-3543-1343



不二サッシ株式会社

営業本部特需部 参事 鈴木 勝善
(昭和42年法卒)

東京都品川区西五反田4丁目32番1号
TEL 03-5745-1237 FAX 03-5745-1296
携帯電話 090-6795-2524

屋があつたところにもむかつて祈
 っていた。私は、元々少し話せばた
 だが、千歳空港に勤務していた
 三十五歳くらいに言葉の問
 題等有り、人生に悲観し一巳の
 とところに行けば楽になると一時
 死ぬことばかり考えていました
 た。結婚して妻、子供三人が待
 つ千歳の宿舎の前の横断歩道橋
 の所で下を見ていたら、車が沢
 山通行しており家族に「ごめん
 ね」と口走り、身を乗り出そう
 としたら、「勝つちやん俺のと
 ころへ来るな、どんなにつらく
 ても生きるんだ」と一巳の声が
 二回聞こえ、はっと気がつく
 私は横断歩道橋に座り込んでい
 ました。しばらくして家に帰り
 妻、子供達の顔を見て家族のた
 めに生きようと思ひました。ど
 んなにいじめられても雑草のご
 とく踏み付けられ、もぐらたた
 きのように頭を出せばたか
 れ、あるときは「平川さんは言
 語障害者だ」とののしられして
 も、妻の協力も有り小学校の言
 葉の教室に特別に入れてもらい
 一年間仕事の合間に通ひまし
 た。先生が私の名前を呼ぶたび
 に、子供の親は目を私の方に向
 けているが、少しでも直すんだ
 と気にしなかつたです。先生は

「平川さん、カラオケとか皆様
 の前で大きな声で歌ったり、正
 直に今の現状話してみなさい。
 そしてどんなにつらい言葉を言
 われても我慢しなさい。その言
 葉を発した人は必ず責任を取ら
 なければならぬ時が来るか
 ら」。

あれから三十年経ちました
 が、言葉の教室に通つたおかげ
 で会社の管理職試験に合格しま
 した。あの時一巳は俺がただの
 友達だったから、当時同級生で天
 国に行つた人あまりいなかった
 から「俺寂しいから来い」と言
 ったかもしれないが、一巳は親
 友だつたから「生きる」と一巳
 俺を突き放したのではないので
 すか。俺のたつた一人の親友だ
 った。五年ほど前に故郷に行
 った時に、何時もの場所で一巳
 のことを目をつぶつて祈つてい
 たら後ろから「平川さんだ、何
 をしているのだろう」と近づき
 私を掴んでいられる方向と場所を見
 てすぐに察知して黙つて帰つて
 いきました。今俺はカラオケと
 民謡の練習して、暇があれば
 ばカラオケボックスに行き歌つ
 ている。何のために行っている
 か一巳わかりませぬ。たいして
 民謡もカラオケもうまくありま
 せんが、昭和四十七年に岩見沢

に勤務していたときに寮に住ん
 でいて、火事にあいすべての写
 真が燃えてしまひ何もかも無く
 してしまつたが、俺の心の中で
 は一巳はいきているからな。も
 し三十年前また出てきて俺をしよ
 うとしたらまた出てきて俺を叱
 りつけてほつたに平手打ちし
 てもいいからな。一巳は天国に
 行つてしまつたけれども、親友
 は天国に行つたからやめたでな
 いんだ。何処にしようと親友は
 親友だから。言葉の先生は、
 「人の短所を馬鹿にしたりして
 いる人は、いつかその言葉の責
 任を取らなければならぬ時が
 来るから、人と付き合うときは
 その人の長所を見なさい」と話
 していた事を思い出しました。
 俺はこれからどんなことあつ
 ても一巳の為に生きるからな。
 あの時、どんなに辛くても生き
 ると言つた意味わかつたから
 な。

高校の三年間の様子は妻に話し
 なければ、他の人には誰も話し
 ていない。一巳と会つたときに天国で詳し
 く話すからな。親友は何処にいたつて親友だか
 らな。一巳わかるな。

(平成五年・経済学部卒)

測量設計全般・土地建物登記

株式会社三陽測量設計

古山弘 (昭和49年工卒)

長生郡陸沢町小滝 475-1
 TEL 0475-44-1869

損害保険ジャパン代理店
 損保ジャパンひまわり生命保険代理店

中村保険サービス

中村良逸 (昭和44年経卒)

茂原市高師392
 TEL 0475-22-2853

「学生時代」そして感謝

照川三郎

思い起こせば昭和四十四年に法政大学に入学し、憧れの学生生活を送ることになったが、七十年安保闘争の時代であり、学校に行けば学生運動が盛んでヘルメット姿の連中のアジ演説があつたり、全学ロックアウトと呼ばれる闘争が行われ、全く学校には入れず、授業が行われず定期試験はレポート提出で単位を取ることにしたり（授業にあまりでなかつた我が身には大いに助かつた面もあるが）また、学校には入れるようになった。でも休講や教室の変更が多く、登校し掲示板で初めて知るという状況であつた。

番と用具の手入れ等雑用に追われることが多く、自分の時間はほとんど無くなつてしまふこともしばしばであつた。二年・三年と学年が上がるにつれ生活も替わり、時間的な余裕は出来るが相変わらず厳しく苦しい練習の毎日である。

その後、教員となり国体に四回出場、昭和四十八年の若潮国体（教員の部）では優勝するこゝとができた。その後、三位が二回という成績を収めることができたが、教員の部が国体から無くなる最後の年は、予選の決勝で神奈川に（雨の保土ヶ谷競技場）3点差で敗退し、その後はラグビーとは無縁となつてしまつた。

はすなほ、世話になつていくことも数多くあるはずなのに、そんなことをまったく気にせず過ごして来た。昨年地域で、ある大きな出来事があり、それをきっかけとして、今自分の住んでいるこの地域に少しでも役に立てるような事が出来たらと思ひながら日々過ごしている。

（昭和四十八年・文学部卒）

広告募集

1 枠三千元です。ぜひご協力を

申し込みは8面の《連絡先》古山まで

随時受け付けています

せんだん（梅檀）は双葉より芳し・・・未来に託して

今井富雄

茂原小学校に勤務して三年目を迎えることとなった。校長室からは、東西に並び三階建ての校舎で学ぶ子どもたちを見守っている、十数本のせんだんの古木が見渡せる。

茂原小学校は、創立百三十九周年を迎える学校である。このせんだんの古木は、今から百年ほど前の卒業生が卒業記念樹として植樹したと記録に残っている。この古木を歌った詩が、今から五十年前の創立九十周年記念誌に掲載されている。当時の校長である勝山格先生が書いた詩である。すばらしい詩であるので紹介する。

せんだんの古木は知っている
勝山 格

せんだんの古木は知っている。
すず虫の鳴いた松林がひらかれ、
ここにできた一棟の学校を。
わらぞうりをはいた子どもたちの前に
ひげの立派な先生がいた。

せんだんの古木は知っている。
空襲警報の鳴りひびく中を
待避壕にかけこんだあの子どもたちの
顔を。

校庭に乾草の山が積まれ
さつま芋のお弁当を食べていた。

せんだんの古木は待っている。
長い長い冬を過ぎて桜がほころび、
ここにそびえたつ三階の鉄筋校舎を。
見上げるような高い窓から
子どもたちの笑顔のよびかける日を。



昨年の秋の朝のことであつた。校庭中央にあるせんだんの太い枝が、前夜の風で二本折れ、無残にも校庭に横たわっていた。早速、職員とボランティアの方の力を借りて片

付けにかかった。

古木には、一本の横に張った枝だけが残され、往時の雄姿は残っていない。このままでは、切り口から水が浸透して朽ちてしまうことは明らかである。半年ほど思案したが、思い切った伐採して、輪切り状にして長く保存することとした。茂小の歴代のPTA役員さんや校長先生方とも相談してのことである。根回りは、二メートルにも

及ぶが、既に腐りが出ている部分もあった。保存用として、根元近くの、比較的腐りの少ない部分を選んだ。最大で経は七寸ほどである。当初は、乾燥と子どもたち等への披露の意味で来賓玄関に置いたのだが、いかにせん強烈な臭いである。初夏に淡紫色の花がたくさん咲き、「梅檀（せんだん）は双葉より芳し」といわれる香木である。（お線香に「白檀香」が売られているが、まさにその「白檀」のことである。）しかし、そのような芳しい香りは全くない。一番近い臭いとして挙げるならば、あの「銀杏の実」の臭いを想像していただきた。休日の二日間も玄関の扉を開けないでいると、それは、とても芳しい臭いが玄関一面に漂っている。早朝に来客でもあろうものなら、一言せんだん談義をして、臭い先を断らないといけないほどである。しかし、これまでの来客で臭いの元を訪ねた人は誰もいない。きつと、聞いてはならないと感じてくれているのであろう。臭いの表現がなかなか難しいからであろうか。

現在は、玄関の外（雨を防ぐ場所）に置き、良き風に当たり乾燥を早める手立てを講じている。このせんだんの輪切りにしたものが、百年を超え歴史を見守ってきた物として、堂々と玄関の中に飾られ日は、何時のことであろう。来春三月に定年を迎える私は、一抹の寂しさを覚えるが、朽ち果ててしまうことなく、長く飾られ、過去を知り・今に学び・未来を描く茂原小学校の子どもたちの姿を見守って欲しいと願うところである。
(昭和五十一年・法学部卒)

大多喜高校：地域とともに

今井智子

私が勤務している大多喜高校は、歴史と伝統のある地域の進学校であり、より高いレベルでの文武両道を目指している学校です。

本校は、大多喜城の二の丸に位置しており、薬医門や大井戸があります。春には大多喜城と本校校舎と満開の桜の景色が素晴らしい所です。昼だけでなく、ライトアップされた夜も綺麗です。お花見ができる学校です。勉強する環境も整っています。普通教室には冷房設備があり、夏も快適に勉強することができます。勉強合宿も三泊四日で行い、朝から夜遅くまで勉強します。校歌の一節に「夷隅は遠く世界を目指す」があります。私は本校の国際教育推進委員会の一員です。昨年は東アジア学生交流の一環として中国訪日団が来校し、交流会を行いました。今年も五月十五日に駐日欧州連合代表部主催の出張授業「EUがあなたの学校にやってくる」を行います。千葉県では九校だけの出張授業です。生徒が世界について勉強ができ、視野が広がると思います。また、

部活動では、昨年は美術部、吹奏楽部、卓球部が全国大会に出場し活躍しました。

私は、本校のマンドリン・ギター部の顧問として、今年で五年目となりました。昨年は十月二十二日に、「知っとこ」というTBSの午前八時から9時の番組でマンドリン・ギター列車の写真が放映されました。この写真は私が撮影したもので、全国放送であり大多喜高校マンドリン・ギター部を皆さんに知っていただく機会でもあったので、とても嬉しかったです。また、広報おたき十一月号では、大多喜町特別養護老人ホームでの演奏会の様子が写真付きで掲載されました。

今年の活動は、四月七日の大多喜さくらまつりで始まりました。大多喜城の満開の桜の下で演奏会を行いました。好天に恵まれ、多くの方々に喜んでいただき、暖かい春の日差しを受けて、気持ちよく演奏ができました。「チェリー」をはじめ、五曲演奏し、さらにアンコールの声をいただいたので「愛の挨拶」を演奏しました。生徒

の日頃の練習の成果が発揮できたよ演奏会だったと思います。この様子は、インターネットの大多喜高校公式ホームページで見ることが出来ます。どうぞご覧ください。五月十二日には市原市にある軽費老人ホーム「溪泉荘」で演奏会を行い、六曲演奏します。六月九日には今年で**五回目となる、いすみ鉄道列車内演奏会(マンドリン・ギター列車)を行います。**午前十時十分には大多喜駅を出発し、上総中野駅、大原駅を経由して大多喜駅に到着する約二時間の演奏会です。二、三年生十二名で二十曲演奏します。六月二十三日の明善祭には一、二、三年生十八名で演奏します。ぜひお越しください。お待ちしております。

(平成元年・文学部卒)

会に対するご意見・ご要望等があれば下記までご連絡下さい

連絡先
〒299-4415 睦沢町小滝 475-1
(株)三陽測量設計内 古山弘
TEL 0475-44-1869
FAX 0475-44-1959
Eメール h.furuyama@sanyou.sakura.ne.jp

編集後記

東日本大震災から一年が過ぎました。昨年は桜を観る余裕がありませんでした。今年、二年ぶりに花見をしました。今年の桜は、冬がきびしかっただけに、より美しく見えました。大震災からの復興には五十年かかると言われています。復興にかかる負担、国が衰弱してしまうのか、それともこれをバネにして再び活力ある国となるのか、後者となるよう我々も努力したいと思います。

(古山)